

<仮訳>

2013年10月24日付け最終版

IFNEC 共同声明
第4回執行委員会会合
アブダビ、UAE
2013年10月24日

IFNEC 執行委員会は年次執行委員会会合を2013年10月24日 UAE アブダビにて開催した。30か国からの閣僚及び上級代表者と国際機関が集まり、民生用原子力安全・セキュリティ・不拡散に合致する方法で平和利用を進める為の相互に有益な取組み方を模索するために関連する課題を取り上げた。本年の執行委員会会合の主催及び議長の引き受けについて UAE の寛大なる対応に深謝が表明された。

執行委員会会合はロシア・ROSATO 社がホストとなり、OECD/NEA の後援で IAEA が開催した国際閣僚会議“21世紀の原子力”の成功を歓迎する。本会合の会長の閉会の辞には、以下が述べられた、“本会合では、エネルギー資源、環境、持続性のある発展への貢献、原子力の安全の継続的改善への努力、基盤整備、原子力の技術革新の育成などを含む広範囲な課題が検討された。各国が自国の原子力政策を決めることを尊重しつつ、本会合は、福島第一原発事故にも拘らず、原子力が、エネルギー・セキュリティを改善し、不安定な化石燃料の価格の影響を抑え、気候変動の影響を緩和するために各国にとって重要な選択肢であることを確認した。”

執行委員会は、安全、核セキュリティ、環境保全、核不拡散を満たす原子力エネルギーの開発と活用の為に、IFNEC の活動がメンバー国、オブザーバー国にとって価値あるものであると確認した。これら各国のうちの多数が原子力発電に初めて取り組む途上にあり、適切な資金確保、人的資源の開発、許容できるバックエンドの燃料管理の策定、強固で独立性の高い規制当局の設立を含む大きな課題に直面している。IFNEC はこれらの課題を討議する場を提供し、各国が夫々の個別ニーズに沿った解決策を作り上げるための支援を約束する。

運営グループ議長、燃料供給サービス WG 及び基盤整備 WG の各共同議長は執行委員会に対し、幅広い有益な諸活動を紹介する年次活動報告を行った。執行委員会は運営グループ及び専門 WG の卓越した活動成果を称賛し、とりわけ以下の成果について謝意を表した：

- 燃料供給サービス WG: CFS を更に進展させる取組、特に、国際的な燃料のバックエンドサービスを実行する上での政府の役割の検討、International Used Fuel Management Practices の見直しなどを含む。
- 基盤整備 WG: 人的リソースの開発、インフラ基盤の地域内活用、安全、保障措置と核セキュリティに関する国際協力、インフラに関する課題についての民間産業界の意見聴取、ステークホルダーの取り込み、緊急対応、その他重要なインフラ基盤関連の課題への取組。

- 運営グループのファイナンス・規制・エネルギー計画当局のワークショップの成功、それには主要ステークホルダーの参画、ファイナンス上の障害と解決策を見出す取組での有意義な結果などを含む。

過年度の様々な努力の結果として、執行委員会は IFNEC が核燃料サービスと基盤整備に継続的に取り組んでいることは IFNEC 加盟国にとって有益であり今後も継続されるべきものと信じる。 執行委員会は、来年以降も以下の様な課題に取り組むことを了承した：

- 運営グループ、基盤整備 WG、燃料供給サービス WG は、IFNEC が原子力の安全、核セキュリティ、持続性を維持して使用されることに貢献できる様な現実的、具体的、革新的方法を見出すことに注力し、かつそれに伴う適切なアクションを執行委員会に提案すること。
- 原子力エネルギーの安全で、核セキュリティ、責任ある使用に関して課題と機会に注目した IFNEC の協力は有意義なものであり継続されるべきものである。 特に、運営グループと2つの WG は、IAEA, GIF, EURATOM, NEA, WANO、その他安全、核セキュリティ、持続性のある原子力エネルギーに取り組んでいる関係者と緊密に協力して、CFS を含む原子力の責任ある発展にとって重要な課題に注力すべきである。
- 燃料供給サービス WG は、CFS の枠組みに民間企業と原発新規参入予定国が参入するためには如何なる条件と機会があるかを見出す為に、また国際間の燃料のバックエンドサービスを進めるにあたっての政府の役割を探求する為に、CFS 関連産業界のワークショップを推進すべし。 燃料供給サービス WG はモデル・アグリーメントの取組に関する議論を更に進め、ワークショップの成果とそれ以降の進展を 2014 年の執行委員会会合で報告すべし。
- 基盤整備 WG は、各国が安全で核セキュリティを満たす原子力の推進に必要な基盤構築に関わる重要な課題に継続して注目すべき、その中には人材養成、規制関連、緊急対応の管理計画、廃棄物管理、原子炉技術の選択とニーズ評価を含む。 この WG では、IFNEC が安全、核セキュリティ、不拡散に関わる重要課題に対して協調と革新を持った取組みを育成し、国際的な原子力責任体制を含む原子力に関わる賠償責任という課題への認知度向上にて貢献できるような方法を追求すべき。
- 参加国とオブザーバー国は、WG が加盟各国の視点や経験を最大限に取り入れられる様、WG 活動に極力参加することを奨励する。
- 執行委員会は運営グループが IFNEC の活動内容と事務局機能の在り方を評価検討し報告すべし。
- 基盤整備 WG は、アフリカにおける原子力エネルギーの発展に関連した機会と課題に注力した“リソースとギャップ (Resources and Gaps) のワークショップ”を開催するよう努力すべし、その場では人的リソース育成、設置サイト、規制当局、ライセンス(認可)等の主要課題を扱うことになる。 このワークショップは IAEA やその他国際機関の活動と重複しない形で行われるべし。 このワークショップは2014年に開催されること。ワークショップの結果は2014年の執行委員会会合に基盤整備 WG の共同議長より報告されるべし。
- ルーマニアが2014年に運営グループ会合と燃料供給サービス WG 会合を主催する。
- ヨルダン王国は有難くも2014年にヨルダンで SMR のワークショップを主催する提案をした。 執行委員会会合はこのワークショップを支援し運営グループに対しヨルダンと

協力して開催するよう指示をする。このワークショップは、関連する燃料サイクルを考慮し、SMRの開発と配備に関わる様々な主要ステークホルダー(設備供給者、ユーティリティ事業者、エネルギー計画当局、規制当局、ファイナンス関係者を含む)が含まれるべし、

- 2014年執行委員会会合は韓国が主催し議長を務める。

(了)